

## 平成24年度 鹿沼市の健全化判断比率・資金不足比率

### ★健全化判断比率

区分	平成24年度	早期健全化基準
実質赤字比率	-	12.25%
連結実質赤字比率	-	17.25%
実質公債費比率	4.6%	25.0%
将来負担比率	35.5%	350.0%

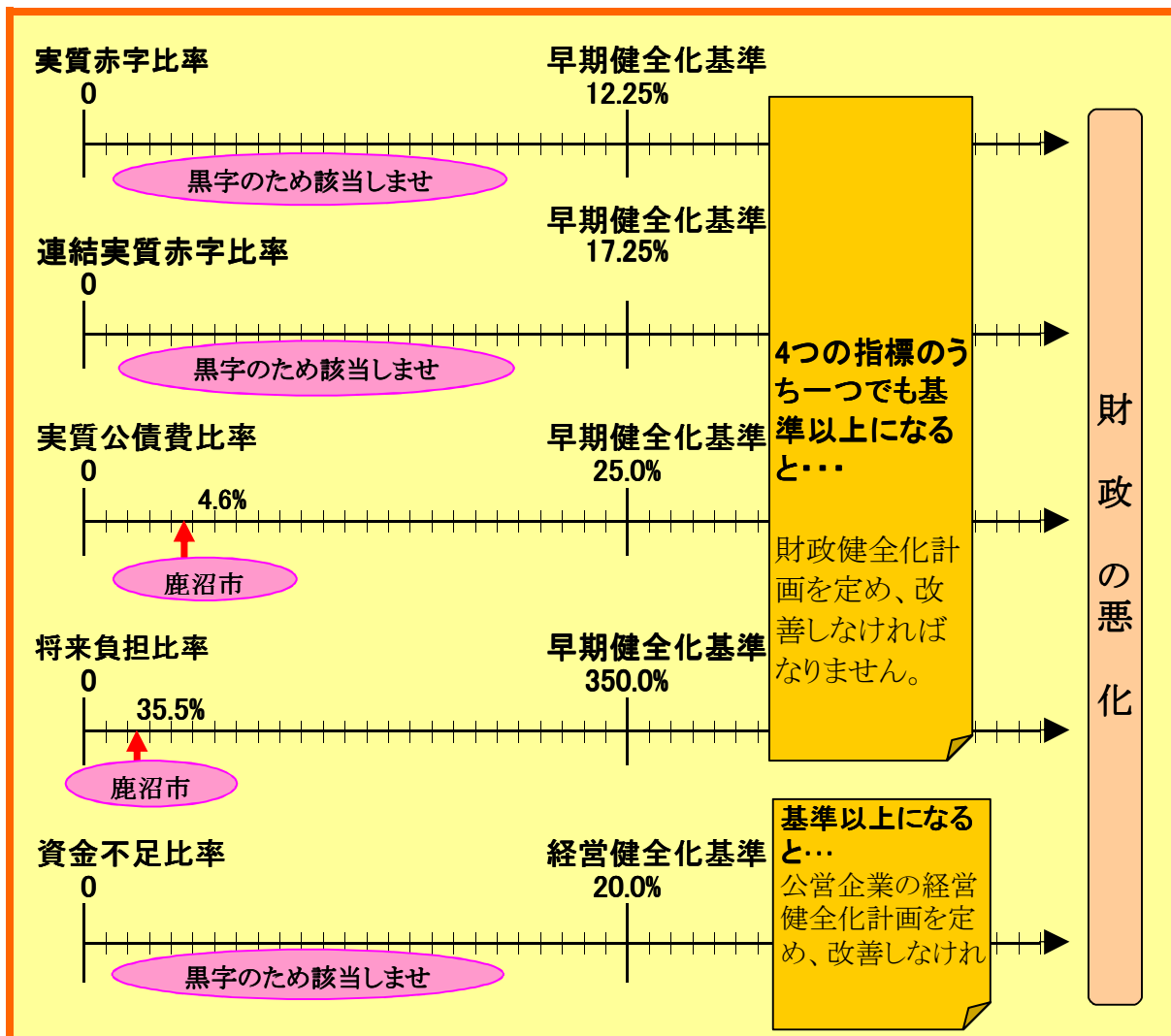
### ★資金不足比率

会計名	平成24年度	経営健全化基準
水道事業会計	-	20.0%
公共下水道事業費特別会計	-	
簡易水道事業費特別会計	-	
公設地方卸売市場事業費特別会計	-	
農業集落排水事業費特別会計	-	

※早期健全化基準と経営健全化基準は、財政破綻の黄色信号をあらわします。

※ “-” は「該当なし」ということです。

# グラフで見てみると



# 鹿沼市の健全化判断比率・資金不足比率を算出

## ■健全化判断比率

### ① 実質赤字比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{実質赤字比率} &= \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} \\ &= \frac{\text{赤字額なし}}{22,705,551 \text{千円}} = \text{該当なし} \leq 12.25\% \end{aligned}$$

早期健全化基準

### ② 連結実質赤字比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{連結実質赤字比率} &= \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} \\ &= \frac{\text{赤字額なし}}{22,705,551 \text{千円}} = \text{該当なし} \leq 17.25\% \end{aligned}$$

早期健全化基準

### ③ 実質公債費比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{実質公債費比率} &= \frac{\left( \begin{array}{c} \text{地方債の元利償還金} \\ + \\ \text{準元利償還金} \end{array} \right) - \left( \begin{array}{c} \text{償還のための特定財源} \\ + \\ \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ \text{された元利償還金・準元利償還金} \end{array} \right)}{\text{標準財政規模} - \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ &\quad \text{された元利償還金・準元利償還金}} \end{aligned}$$

(3カ年平均)

平成22年度 6.6%	+	平成23年度 2.8%	+	平成24年度 4.5%	=	4.6%	≤	25.0%
3年								早期健全化基準

## ④ 将来負担比率

○算出式

$$\begin{aligned}
 \text{将来負担比率} &= \frac{\left( \begin{array}{l} \text{一般会計等の地方債現在高} \\ \text{債務負担行為の支出予定額} \\ \text{公営事業会計等の地方債元利償還} \\ \text{のために一般会計等から支出する} \\ \text{見込額} \\ \text{一般会計等の退職手当支給予定額} \\ \text{地方公社や第3セクター等の負債額のうち、} \\ \text{財務・経営状況を勘案した一般会計} \\ \text{等の負担見込額 など} \end{array} \right) - \left( \begin{array}{l} \text{将来負担額に充当することが} \\ \text{できる基金} \\ \text{将来負担額のうち、地方債の元} \\ \text{利償還・準元利償還、債務負担} \\ \text{行為の支出予定額に充当するこ} \\ \text{とができる特定財源} \\ \text{地方債現在高に係る交付税の基準} \\ \text{財政需要額算入見込額} \end{array} \right)}{\text{標準財政規模} - \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ \text{された元利償還金・準元利償還金}} \\
 &= \frac{\text{将来負担額 } 53,838,937 \text{千円} - \text{充当できる財源等 } 46,951,818 \text{千円}}{22,705,551 \text{千円} - 3,357,610 \text{千円}} \\
 &= 35.5\% \leq 350.0\%
 \end{aligned}$$

## ■資金不足比率

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模(営業収益の額－受託工事収益に相当する収益の額)}}$$

	資金不足額なし		該当なし	≤	経営健全化基準
●水道事業会計	1,228,365千円	=	該当なし	≤	20.0%
●公共下水道事業費特別会計	1,029,378千円	=	該当なし	≤	20.0%
●簡易水道事業費特別会計	132,657千円	=	該当なし	≤	20.0%
●公設地方卸売市場事業費特別会計	8,278千円	=	該当なし	≤	20.0%
●農業集落排水事業費特別会計	41,919千円	=	該当なし	≤	20.0%